

■ グループ紹介

東北電力(株) 総合研究所

ま え が き

当社は新潟県を含む東北7県、わが国総面積の5分の1におよぶ広大な地域に散在するお客様に電気をお届けしており、発・送・変・配電設備なども地理、気象上の厳しい自然条件下に設けている。このような環境のもとで電気事業としての使命を達成するには多くの課題を克服してゆかねばならない。このため、

- (1) 新技術の開発および経営の研究推進
- (2) 東北特有の問題に対する独自の研究推進
- (3) 中央の諸機関、大学などの外部機関との提携の強化ならびに地元産業に対する技術協力

を主旨として昭和43年5月1日、当研究所が設立され、以来16年間当社研究の中核として研究開発を行ってきた。

研究所の組織、事業内容

当研究所は1課3研究室からなり、所長以下81名で構成されている。(昭和59年1月10日現在)

研究管理課は、技術開発計画をはじめ、特許および実用新案の取得、維持管理など本社研究の総括管理と所内庶務に関する業務を、経営研究室は主として東北の産業経済に関する調査研究を、電力研究室は発変電、送配電、原子力および電子応用に関する研究を、そして応用研究室は電気応用、土木建築および理化学などに関する研究を行っている。

研究設備

当研究所では電算機を利用した研究諸装置の総合自動化システム(LA)を開発して昭和56年から運用し、理化学分析用諸装置のデータ収集・処理・分析業務の省力化と精度向上を図っている。研究所構内には特別高圧、環境、省エネルギー、水理およびコンクリート等の各実験室を有している他、東北各地にそれぞれの研究に適した実験設備を備えており効果的な研究を推進している。その主なものは次のとおりである。

- (1) 青森県下北半島における風力発電の研究のための風況観測装置

- (2) 青森県上北、山形県小国の着雪試験送電線
- (3) 山形県の当社米沢変電所構内の雪害実験場
- (4) 仙台火力発電所における温排水利用によるあわび、くるまえびの養殖実験場
- (5) 新潟県巻町を中心とする日本海沿岸特有の冬期雷を主対象とした雷観測装置および雷撃点標定システム
- (6) 新潟県佐渡の風力・太陽光併用電源システム

技術開発重点項目

当社は多様な技術開発課題の中で次の項目を重点として推進している。

- (1) 原子力発電の稼働率向上や石炭利用技術の開発など電源多様化に関する研究とともに低ロス電線の導入拡大や、リップルコントロールの多目的活用技術の開発など電力設備全般について建設コストの低減や設備の保守・運用の効率化に資する技術の開発導入
- (2) 総合通信網の構築、電算機の活用拡大など業務運営の効率化に資する技術開発を進めるとともに日常業務の改善研究
- (3) ヒートポンプの利用拡大や新型電気毛布など電力の有効利用に関する技術開発
- (4) 雷・雪害など自然災害防止技術の開発・導入ならびに風力・太陽光などの新発電技術の開発

むすび

以上、当社の技術開発の概略について述べたが、この他にも石炭灰の処理・有効利用技術および発電所温排水の農・水産への利用技術などについても鋭意研究を進めており、60年代における当社の経営基盤の安定・強化を目指して全員一丸となって研究開発業務に取り組んでいる。

所在地：〒986 仙台市中山7-2-1

(文責：小室秀信)